

2000 夏号

調布まち会だより

発行：特定非営利活動法人調布まちづくりの会 <http://www.fukuda.is.uec.ac.jp/cmn/index.htm>
 〒182-0024 東京都調布市布田1-20-12-203 TEL:0424-88-3985 FAX:0424-88-3986
 発行責任：大久保喜正 郵便振込口座：00150-1-136749 加入者名：調布まちづくりの会



6/10 調布探検まちあるき

深大寺周辺ウォーク&リッスン

葉柳や崖線の水ほろほると

まちあるきの折に 新倉 剛

布

多天神から深大寺まで、ポイントポイントで説明を聞きながら歩く企画に、市民の参加が40人を超え、資料補充にスタッフがコピー屋さんへ走るほどでした。天神の杜から、マンション開発が先行するシンボル道路(工事中)朝の活気が残る武蔵野市場前を経て野川へ。水辺で「野川と自然」について江刺さんのスピーチ。御塔坂橋袂で「武蔵境通りの拡幅計画」についてF.小林さんの説明。改修前の御塔坂橋や昔の御塔坂の写真も紹介された。星美幼稚園横から調布の街を鳥瞰し、雑木林を抜けて池上院の小さな池を見ながら湧水の見分け方の勉強。ここは数少ない本物の湧水なのだ。やまぼうしが咲く虎狛神

社を通り、天然記念物の禅寺丸(柿)のお宅へ。皆さんは、お茶を馳走頂いた茅葺きの民家の内部が興味深そう。

祇園寺では住職から、この地にまつわる深大寺縁起をきく。寺は明治の自由民権運動の志士とも関係が深く、庵の横には「自由の松」が大きく育っていた。水不足で田植えが半分しか出来なかった佐須用水沿いに野草園に至り、M.小林さんの「湧水談義」に耳を傾け、青渭神社、水生植物園、深大寺城址、深



大寺と巡って、門前の蕎麦屋さんに着く。店主から深大寺蕎麦の講釈と地域での修景への取り組みをきき、蕎麦をすすり始めたのは2時半。勉強いっぱい1日でした。(矢嶋)

東京都「国分寺崖線景観基本軸案」公表される！

東

京都市は景観条例に基づき、いくつかの景観基本軸を設定して重点的に景観づくりを進めています。調布市に関連する景観基本軸としてこの7月3日に「国分寺崖線景観基本軸(仮称)」の案が公表されました。案は地域指定、基本計画、景観づくり基準で構成されています。対象地域は国分寺崖線を挟んで崖線の上80m、下360mを目安とされていますが、調布市内では概ね崖線の上が200~800m、下が300~400mの区域が設定されています。

都はこの案に関する意見を募集しているため、景観部会では今までのまちあるきや、独自の調査の成果をベースに、内容を検討してみました。この案をよく読んでみると、基本計画の「景

観づくりの目標」で国分寺崖線の自然、歴史、文化、産業の多角的な観点から“緑の景観遺産”と位置づけていることは評価できるものの、様々な問題が指摘されました。以下に部会で出された意見の主なものを紹介します。

【区域について】

調布市内では指定区域は野川までの範囲とした方が良いでしょう

水系の保全の観点から崖線と関連する谷戸がはずれている。範囲に含めるべきだ

【景観づくり基準について】

他の景観軸と同様、全体的に抽象的な記述が多いので、重要な事項については具体的に基準を設定する(例えば「連続する緑の景観」について「配慮す

る、高さを検討する」とあるが、不明確である、など)

感覚的記述を具体例で示せないか(圧迫感の軽減、色彩の周辺との調和、サインなど)

崖線内は、もっと厳しい基準にしてはどうか

【周知、公表について】

崖線保全の意義を含めた景観基本軸について説明会等を開催するべきだ
募集した意見、都の見解を公表し、どう変更したか示すべきだ

景観部会では個人ベースで各自が意見を提出しています。意見の募集は7月末で締め切られました。(大和田)

(東京都都市計画局ホームページ<http://www.toshikei.metro.tokyo.jp>)

蔵のまちといえば喜多方、川越、倉敷など、蔵がまちの景観を形成していることで有名ですが、調布の蔵といってもなかなか連想できないのではないのでしょうか。しかしなんと調布には70棟以上もの蔵が現存しています。このことは調布に長年住んでいる人でもあまり知られていないのではないのでしょうか。調布の蔵を探索するようになったのは昨年5月頃からで、何度か散歩をするうちに蔵がまちなかのあちこちに点在していることに気が付いたのがきっかけでした。

そこで調布に現存する蔵に関する資

料を調べた結果、郷土博物館や図書館に「調布の古民家」という書物に個別的に数点、紹介されているだけで、蔵について網羅的に編纂されたものがなく、調布の蔵に関する資料の必要性を痛感しました。また、現実においてはライフスタイルが多様化する都市環境の中で蔵という建築物を維持保存していくことは非常に難しいことです。もしかしたら調布の蔵も時が経過するに従い、その姿が消えていくかもしれません。そこで、なんとか調布に現存する蔵をなんらかの形で記録に留めておきたいと思い、ガイドマップを作る計

画を立てました。

探索を始めてから1年経った今、ようやく**調布の蔵MAP**を編集製作することができました。なお、**調布の蔵MAP**発行については準備中ですので、いましばらくお待ち下さい。今号ではその中からいくつかの蔵をご紹介しますと思います。これから、この記事を書きかけに蔵の存在を意識しながら調布のまちを散策し、少しでも調布の蔵に興味を持って頂ければ幸いです。また、みなさんからの調布の蔵に関する情報を待っていますのでよろしくお願い致します。

調布の蔵

～ 探訪 ～

レポート：沖崎 剛

どんなところに？

現在、市内に現存する蔵の分布状況は上石原から国領町に至るまでの旧甲州街道沿いに面して約20棟、京王線南側の布田3丁目付近や、国領町4、6丁目付近には約10棟、深大寺周辺の広い区域で約20棟、柴崎から仙川までの甲州街道沿いには約15棟が現存しており、ほぼまんべんなく市内に点在しています。この分布状況を考えると、まだ他に現存していることは十分に予測できます。しかし一方、調布は地理的にも典型的なベッドタウン都市で約30年前からマンション建設、宅地開発、ビル建設などや、交通機能の充実による道路建設によってかなりの蔵が取り壊されていっただろうと思います。



調布の蔵 分布図
2000年5月現在

どんな蔵が？

農家の蔵と商家の蔵に大別されます。昔は農家の蔵は米蔵、穀蔵、繭蔵、味噌蔵などとして、商家の蔵は米蔵、酒蔵、味噌蔵に加え宝蔵、金蔵、商品を保管するための蔵など多様に使われていたようです。現在は流通システムの利便性により物を保管格納する必然性がなくなりほとんど物置がわりに使

われているようです。蔵の構造はすべて木造で、外壁は土塗り、漆喰塗り、板張り、石貼り、その組み合わせなど様々です。屋根はすべて切妻であり、半数以上が置屋根形式です。これら建築的要素で構成されている蔵は独特の雰囲気のある佇まいを感じさせ、調布の貴重な景観を形成しています。

まちづくり勝手に Q & A

Q:都市計画ってどんなこと？

A:都市計画とは 普通の意味で都市を計画すること、「都市計画法」上の都市計画を指します。は例えば、まちの将来像を絵にして提示する「行為」や、空間の利用方法を調整して、土地の利用と施設の配置や規模を規定し、それを実現するための「技術」を指します。の都市計画法の対象は土地利用、都市施設の整備、市街地開発事業です。それらの行為はほとんど法で示された手続きを経てあらかじめ「都市計画決定」されることになっていて、この点から都市「計画」と称されます。

Q:もっと具体的に教えて！

A:まず土地利用は市街化区域、市街化調整区域や第一種低層住居専用地域などの用途地域があり、手法としてはほとんどが「規制」です。都市施設としては都市計画道路、下水道施設などがあげられ、「計画」と「事業」で実施されます。「事業」には、例えば国領駅前の市街地再開発事業や布田地区の土地区画整理事業などがあります。ただし都市計画法はあらかじめ計画的に都市計画決定するということが主で、事業の実施にあたっては各々の個別の法律などに則って行われます。「計画」としては調布まちづくりの会の発足のきっかけとなった都市計画の基本方針(都市計画マスタープラン)があげられます。(大和田)



比較的大きな蔵である。押縁南京下見板張りの妻壁に三つの窓がバランスよく穿たれ、白漆喰の破風が全体を引き締めている

上石原 1-10 付近

茅葺屋根の主屋と共存している。永い歴史を共に励まし合って生き続けている。茅葺の質感と白漆喰の壁の対比が美しい。

深大寺東町2-6付近



大正寺境内の竹林に建つこの蔵は独特の形態をしていて、交通量の激しい甲州街道のすぐ脇に静謐な佇まいを醸し出している。

布田 1-22 付近



広い敷地に豊かな緑に抱かれるように建っている。やわらかい木漏れ陽に照らされたこの蔵に出逢うたびに心が癒される。

深大寺元町 2-14 付近



旧甲州街道沿いに建つこの蔵は住宅の一部としてうまく取り込まれていて、まちなかに違和感なく溶け込んでいる。

布田 2-49 付近

まちなかに建つこの蔵は今年コンサートが開かれた。このように現代に生かされた蔵の活用によるまちづくりが期待される。

布田 1-33 付近



左官仕上げで石貼模様にする蔵は多いが、この蔵は本物の石を外壁の材料に使用しているため存在感のある重厚な意匠である。

仙川町3-1付近



品川道路北の静かな宅地に建つ。押縁南京下見板張りと白漆喰の取り合いが上品で、この蔵は実際に見たほうが素晴らしい。

布田 3-10 付近

妻壁に漆喰水切が二段しつらえてあり、さらに屋号が装飾されていて建物としてのデザイン性を感じさせる蔵である。

仙川町3-9付近



Q & A 予告

今回は地方分権とからめて「都市計画と市民参加」を予定しています。

まちづくりに関する素朴な疑問待ってます！！



ネパールのNGO来訪！

今年6/15ネパールのNGO団体「SOUP (Society for Urban Poor)」のビジャヤ・ラクシュミ・バイディヤさんと日本のNGO団体「シャプラニール」の長畑さん、斉藤さんとの交流会がまち会の事務局で行われました。主にネパールの都市貧困層の生活向上と自立した市民によるまちづくりについて話し合い、これからもお互いに交流していくことになりました。
(事務局)

シリーズ 調布今昔 ～吉永小百合も通った布田駅～



1974(昭和49年)の布田駅。
(調布今昔写真集 - 調布市教育委員会より)



現在の布田駅 / 2000年7月、新宿方向に向って撮影した。

布田駅は日活撮影所への玄関駅として知る人ぞ知る存在であった。

「若けえ頃の穴戸錠が水たまりだらけの石ころ道を駆け出して行ったもんだ。」と駅前の果物屋の主が話していた時代や、「菜の花畑の間の静かな砂利道を、のんびりと田んぼの方へ下りて行ったものです。」と吉永小百合が語っていた時代は、この写真より20年くらい前だろう。

昭和49年(25、6年前)と言え

ば調布市の人口急増も飽和期にかかり始めていたけれど、写真のように、線路を歩いて反対側のホームに上がるスタイルはまだあちこちの駅に見られた。下り電車の一番前の車両に乗り、電車が動く前にその前を通って線路を渡ってしまう・・・まだ人口増の波がそれほど西まで進んでいなくて、電車の本数も少なかった時代の記憶だ。

現在の布田駅は地下道で上下線ホームが結ばれているが、やがてこの

フォームも線路も地下に潜る計画であり、布田通りの拡幅や布田地区再開発も話題となっている。四半世紀後、写真の生産者直売の旗や立て看板が分かる人はどのくらいいるだろうか。

(矢嶋)

写真募集

調布の昔の写真を探しています。お持ちの方は調布まちづくりの会までご連絡ください。

おしゃべりサロン「相互塾」

2000年3月28日(火)に公開講座「相互塾」をスタート。世代を超えた交流の場として、誰でもフリーに参加でき、集まったメンバーが話し手にもなり、聞き手にもなる進め方をしていることから「相互塾」と呼んでいます。言ってみれば、みんなで創る「相互塾」なのです。

第1回「映像の影響について」に続いて、4/24「まちづくりへの関わり」、5/29「パラパラ漫画から始まったアーティスト岩井俊雄」、6/26「パブリックアート(まちなかアート)と広場」と、私たちの生活感覚とまちづくりに密接な関係があるテーマに活発な議論に花が咲きいつも時間切れの状況でした。

これからのテーマは、街中にある面白いものの写真を撮り合う「調布不思議発見」のような屋外での活動も含めて、いろいろ計画中です。

「相互塾」の議論を一度聞きに来ませんか?話してみませんか?そして、温もりのある「相互塾」にみんなで育ててみませんか?月1回開催の案内を毎回市報に掲載しています。会場は総合福祉センター201会議室です。(森下)

第3回

8月28日(月) 午後7時～9時

テーマ:映画よもやま話

語り手:岩井 衛さん

第4回以降の予定

9月「私の戦争体験」

10月「岡山まちなみづくり」鉄矢さん

11月「調布の本当の歴史」小林さん

12月「中高年のパソコン事始」

市政学習会のお知らせ

市・若手職員と熱い思いを語り合いませんか!(顔の見える関係づくり)

<第3回>

8月29日(火) 午後7時～9時
会場:総合福祉センター203会議室

テーマ:21世紀の調布のまちづくり

語り手:都市建設部 佐藤幹爾さん

<第4回>

日程は未定(決まり次第お知らせします)

会場:総合福祉センター203会議室

テーマ:21世紀の調布のまちづくり

語り手:都市建設部 小野さん(予定)

(新井田)

まち会定例会

場所:総合福祉センター 団体室

日時:9/6、10/4、11/1(第1水曜)

PM7:00～9:00

【編集後記】

NPO法人になって他団体からも情報が届くようになってきた。このニュースレターも、もっとおおぜいの人に届けたい。原稿を募集しています。(江刺・矢嶋)